

脱炭素ワークショップに参加して

▼昨年末から2月にかけて、全国で当地エネルギー協会が主催する、脱炭素ワークショップが福島2会場、東京1会場で行われ、すべての会に参加し、一緒にSDGsゲームをやったり、事例紹介として私からミニレクチャーをしました。

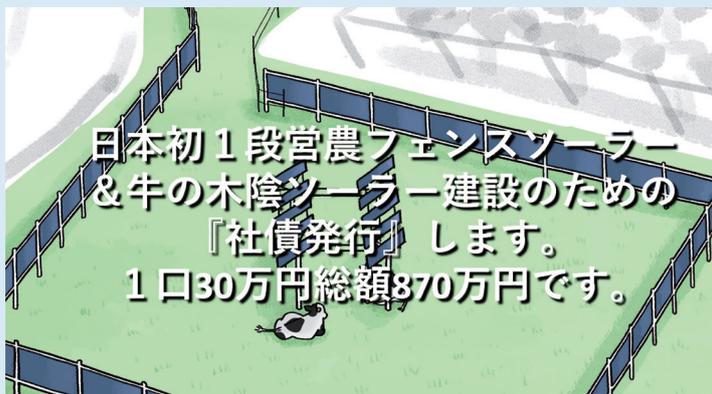
▼それぞれ、中高生グループ、大学農林サークル、男子学生寮、とグループの性格は異なりますが、温暖化（あるいは沸騰化）への危機感を共有することでは一致できていたかと思います。特にファシリテーターの前振りが素晴らしく、『平均1.5度なんて、たいしたことないと考えがちだが、あなたの平均体温36.5度が1.5度上がったらどうなりますか？』など、事実を誇張なく、かつわかりやすく伝えてくれる力量に驚いたものでした。ワークショップのメインは「対話と協働」が必要なロールプレイングゲームをし、それを通じて振り返りをするのです。

<https://issueplusdesign.jp/climatechange/college/about/play>
かなり作り込まれたこのロールプレイングゲームは、達成が難しく3会場の中で達成できたのは1会場のみ。悔しさや面白さから、どのグループも、もう一度やりたいという方ばかりでした。「対話と協働」の作業を通じて目標に挑むトレーニングは、現実の課題にも役立つと思われた方も多かった様子でした。

<お知らせ>

この度、二本松営農ソーラー運営会社のゴチカンが、新たな営農型発電所の建設のため、初期費用の一部資金870万円を社債発行によって調達します。利率は源泉徴収前で2.50988%（個人は手取り2.0%、法人は手取り2.12%）、額面は一口30万円、償還期限は2037年（12年間）です。詳しくはリンク先をご覧ください。

<https://gochikan.com/vertical2502>



▼さて、私のミニレクチャーでは年齢や関心に合わせてお話をさせていただきましたが、最後の男子学生寮でお話ししたのは、昨年末に、震災後はじめて福島県双葉郡浪江町にある「震災遺構 浪江町立請戸小学校」に訪問したエピソードでした。年末休業だったので外観を眺めるだけでしたがその爪痕は凄まじいものでした。そして、近くとは言えない山へ子供達を避難させた決断ができた教員達の、「子供達を守る気概」を感じました。入り口の案内板をガラス越しに見ることができ、そこに書かれている最後の文章におや？と感じたことを紹介しました。

——抜粋——『私たちは災害がいつ・どこで・どのような形で起きるか分からない、そのことを東日本大震災で身をもって痛感しました。本遺構は、皆様が災害の脅威や私たちの経験に触れることで、ご自身の災害への備えを改めて確認する場となり、その備えが来る災害へ活かされることを願います。』——抜粋おわり——

市民の防災意識を高めることは大事なことです、それと並行して行われなければならないのは、国や自治体が防災意識を高めることではないか。どことなく他人行儀な案内文に、集団になつたり、熱いものが喉元が過ぎてしまうと、このような文章になってしまうのだろうと残念に思いました。自戒を込めてこの1年を以下の気概をもってはじめてたいと思います。「安全な農産物と安全なエネルギーをあまねく届ける」（近藤）

